

長久手
キャンパス

人工芝グラウンドが完成



グラウンド2。野球の練習用として整備



サブアリーナから見た陸上トラックとグラウンド1。左手奥にグラウンド2が見える



上はラグビー、下はクロスの練習風景



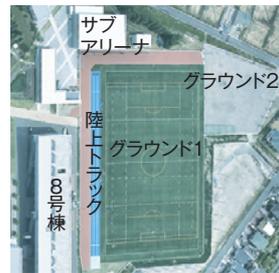
陸上トラック



照明の設置で夜間の利用も可能。上は走り幅跳び、下はサッカーの練習風景



上はラグビー、下はクロスの練習風景



グラウンド周囲に側溝を設置し、排水機能を高めた。正面はサブアリーナ、左手は8号棟

長久手キャンパスの東端に人工芝グラウンドが完成しました。2006年建設のサブアリーナ、弓道場、多目的運動場に引き続き、運動施設整備の一環として今年1月に着工、5月に竣工しました。

グラウンド整備の経緯

2007年4月、教育学科が開設されましたが、陸上等の体育授業に対応した陸上トラックはありませんでした。加えて課外活動、特にラグビー

部などにとって既設のグラウンドは狭く、天然芝の整備も不十分でした。このような状況の中、07年9月にキャンパス北側に駐車場が整備されたことに伴い、使用しなくなった東側駐車場跡地の一部をグラウンドに転用。グラウンドを拡張すると共に、人工芝のグラウンドに整備することになりました。

陸上トラックと二つのグラウンド

●陸上トラック 5レーンを有する全天候性陸上トラックは、100m走や110mハードルに対応。トラック南側端部には踏切台と砂場を配置し、走り幅跳びも可能です。

●グラウンド1 人工芝張りで、120m×70mのラグビー場が取れる広さがあり、ラグロスやサッカーにも対応できます。

従来の天然芝は、芝のはげた部分の段差や水たまりにつまづくなどの危険性がありましたが、ゴムチップ

入りの人工芝は芝面が均一のレベルとなるため、問題はほぼ解消されます。またメンテナンス費用の面でもメリットがあります。

雨天後の水はけは天然芝より人工芝の方が優れています。さらに四周に側溝を設け、グラウンド下部に地中の溜まった水を流す排水管を埋設したことで、排水促進の性能を高めています。また排水溝の蓋などに人工芝を張ることで、安全性を高めた作りとなっています。

●グラウンド2 野球部のバンテイングケージ内でのトスバッティングを主体とした練習用に整備し、グラウンドに表層の砂が周辺に飛散しにくいクレイ舗装を採用しました。

近隣への配慮

●グラウンドの南側から東側にかけて、約15mの高さの防球ネットを設置。敷地外へボールを飛びにくくしました。

●グラウンド2周辺の植栽は、緑化と共に、隣接した住宅への視線の遮断効果を考慮しています。

●住宅側に面したグラウンドの照明は、ルーバー状の器具を採用するなど、住宅に直接照明が当たらないように配慮しています。